

((別記様式第 15 号))

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小布施町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	野生鳥獣の被害防止にかかる緩衝帯整備
事業費		469,000 円 (うち支援金: 469,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

高山村や中野市との境にある雁田山は、山麓が集落等と隣接しているため、地域の人々の生活に深くとけこんでいる。しかし、近年、林業の衰退及び急傾斜地であることから間伐などの森林整備がほとんど行われなくなってしまい集落等に野生鳥獣が出没することがある。

(2) 本事業の目的

雁田山の健全な森林環境を保全するとともに、野生鳥獣と農村集落の共存・共栄のため、緩衝帯を設けるとともに里山を整備することを目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 小布施町雁田地区

(2) 対象者 地域住民、事業者

(3) 実施方法 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域住民が一堂に集まる緩衝帯づくりは実施せず、傾斜地等で住民の手では実施が困難な箇所については予定どおり業者に委託して実施した。また、地域住民で実施してきた箇所においても新型コロナウイルスの影響で 2 年間実施することができなかったことにより下草が成長してしまっているためその箇所についても一部を委託して実施する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 緩衝帯整備 距離約 1,500m (各年度 300m) 幅 15m

②令和 3 年度実績 距離約 600m、幅 15m



(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

野生鳥獣が身を隠せる下草を伐採することで、集落等に出没しづらくなる。森林整備を近隣住民自らが行うことにより、森林に対する意識が向上する。

(2) 継続性

近隣住民による緩衝帯整備は、平成16年度から継続して毎年実施している。下草が3～5年程度で成長してしまうため、同程度のサイクルで事業箇所を変更し実施していく。

(3) 普及性

雁田山麓には遊歩道も整備されているが、ウォーキングやランニング等で利用する住民も多い。また、岩松院や浄光寺といった町内有数の観光スポットもあり、観光客も多く訪れている。緩衝帯整備により下草を刈ることで、森林景観も良くなり、広く事業効果を普及することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた地域住民の皆さんをはじめとした住民ボランティアによる緩衝帯整備づくりは実施できなかったが、例年行っている傾斜地等で住民の手では実施が困難な箇所に加えて、新型コロナウイルスの影響で2年間実施できなかった地域住民で行ってきた箇所についてもその一部を業者委託することによって、森林の奥まで見通しが良く、景観的にも良い森林環境づくりを一体的に行うことができた。

(2) 課題

- ・地域住民等と一緒にやる緩衝帯整備づくりについては、農作物の収穫期前の整備がより効果的なため、実施の時期は地元自治会と協議の上決めていきたい。
- ・放っておくとすぐに下草が繁茂してしまうため、継続的な実施が必要である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

年々、地域住民の山林に対する意識が向上してきていると考えられる。防護柵による侵入防止対策と組み合わせることにより、有害鳥獣による農作物の被害も軽減される。今後も継続して里山を地域住民と行政一体となって整備していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない